ドイツ語のすすめ

はじめに

大学に入学して第二外国語で何を選択したらいいの分からず、途方に暮れている人も多いことと思います。それはそうです。始める前からその言語（とその文化）の楽しさなど分かるはずもありません。そこで皆さんにドイツ語とドイツ文化について簡単に紹介するとともに、その魅力をお伝えしたいと思います。

1. ドイツ語は難しい？－Nein!（いいえ）

ドイツ語は決して難しい言語ではありません。（もちろん簡単でもないけど…）ドイツ語と英語は兄弟のような言語ですので、とても似ています。だから英語を勉強してきた皆さんには比較的分かりやすい言語です。ここでクイズを出してみましょう。Vater, Mutter, Bruder は何を意味しているのでしょうか？　少し考えてみてください。ヒントは「家族」です。もうお分かりでしょう。Vater は father、Mutter は mother、Bruder は brother です。どうですか。とても似ているでしょう。こうした類似性は数え上げたらきりがありません。ちなみに「家族」（family）という名詞も Familie と言います。

次に発音を見てみましょう。ドイツ語は基本的に「ローマ字読み」で発音します。例えば Bus という名詞があります。［バス］とは発音しません。ローマ字読みですから［ブス］です。Name という名詞は［ネーム］とは言いません。［ナーメ］と言います。嘘みたいですが本当です。そのまま読めばいいわけですから、英語と比較してみても発音は圧倒的に楽なのです。ただ残念ながら、このローマ字読みの規則はすべてに当てはまるわけではありません。物事には必ず例外があるのです。例えば ei はローマ字読みの原則に従えば［エイ］と読みたいところですが、［アイ］と読まなくてはなりません。ですから **Ei**s は［エイス］でなく［アイス］、Arb**ei**t は［アルベイト］でなく［アルバイト］となります。まだあります。eu は［エウ］でなく［オイ］と読みます。**Eu**ro は［エウロ］でなく［オイロ］です。他にも例外はありますが、それほど多くはありません。

さて先程、ドイツ語は「簡単でもないけど」と（さり気なく）書きました。というのも「この世に簡単な言語などない」からです。これは断言できます。ドイツ語にはドイツ語の難しさが、英語には英語の難しさが、日本語には日本語の難しさがあります。だから、たとえドイツ語では定冠詞が変化しようと助動詞が変化しようと、多少のことには目をつぶらなければなりません。他の点でドイツ語には易しさ（優しさ）が用意されています。

2. ドイツの文化は面白い？－Ja!（はい）

「ドイツ」と聞いて皆さんはまず何を思い浮かべますか？　初回授業でアンケートを取ると、学生の多くは食事に関しては「ビール」「ソーセージ」「ジャガイモ」、工業に関しては「自動車」、スポーツでは「サッカー」と答えます。これが日本人にとっての典型的なドイツ像でしょう。以下にこうしたドイツ像ついて、補足しながら簡単に紹介していくことにしましょう。

ドイツでビールは「液体のパン」と呼ばれます。そうした言い方の背後にはビールが単なる飲み物であるという以上に、ドイツ人の胃袋を支えるという主食的な意味合いが込められています。ビールなしではドイツ人は死んでしまいます。いや、これは言い過ぎかもしれませんが、それほどビールはなくてはならないものなのです。（ちなみにスーパーでは日本の半額以下で購入できます。ビール好きにとってドイツは天国のような場所です。）

ソーセージはドイツ人のソウルフードと言ってよく、本当によく食べられています。通常は小さなパンに挟んで食べますが、人気があるのはソーセージを細かく刻んで、その上にカレーパウダーとケチャップをかける「カレーソーセージ」です。

ドイツとジャガイモの結びつきですが、これはジャーマンポテトに由来しているのでしょう。ただドイツではジャガイモを茹で潰して団子状にしたものもよく食卓に並びます。一口にビール、ソーセージ、ジャガイモといってもその種類は豊富で、単純に語ることなどできない深い伝統を持ったものなのです。

食事に関するある種の田舎くさいイメージとは対照的に、ドイツは先端科学技術を持つ工業国としても有名で、特に自動車産業では他国を圧倒しています。メルセデス・ベンツ、BMW、アウディ、ポルシェなどの高級自動車メーカーがあります。車だけではく、電機機器関連では、シーメンス、ブラウン、ケルヒャー、ライカなどのメーカーもドイツです。少し値段は高いけれど、その分長持ちのする良質な製品を生み出すことで、ドイツ製品は世界中で愛されています。

またサッカーにおいてもドイツは強豪国で、ワールドカップで 4 回優勝しています。ドイツのサッカーリーグ「ブンデスリーガ」には国際的なスター選手も数多く所属し、日本人選手も活躍しています。またドイツへサッカー留学する日本人選手や、指導理論を勉強しに行く指導者も多数います。そもそも日本の近代サッカーは、東京オリンピックの際に日本代表チームのために招聘されたあるドイツ人から始まりました。だから日本のサッカーはドイツの影響が強いと言えます。

以上、簡単に典型的なドイツ像とその補足を行いました。だが、どうでしょう。ドイツと言えば「ビール、ソーセージ…」というありきたりな羅列は、例えば「日本についてどう思う？」という質問に対して、「そうだなあ、日本と言えば、トヨタ、ソニー、忍者、寿司…」と言っているようなものです。ドイツ語の授業では、こういった伝統的ドイツ像のみならず、現在の生き生きとしたドイツにも出会うことになるでしょう。

3. ドイツ語を勉強するにあたって

さて最後にドイツ語を学習する際のお願いです。

（1）当たり前のことですが授業を休まないこと。語学の初級の授業は連続性を重んじます。前回に学習したことを土台にして、次々と新しい用法を習得していくのです。ですから休みが重なるとその連続性が途切れてしまい、授業に追いつくのにかなりの労力を要します。語学の授業は自主休講厳禁です。（もちろん他の授業は休んでいいと言っているのではありません。）

（2）週 1 回や 2 回の授業に出席するだけでドイツ語ができるようにはなりません。授業に出席し、宿題をこなすだけで終わってしまうのではなく、自主的な復習を心がけて下さい。NHK E テレのドイツ語会話、ラジオ・ドイツ語会話、インターネットなどを利用して下さい。（お勧めは授業中に紹介します。）

（3）実力がついたかなと思ったら「独検」こと「ドイツ語技能検定試験」を受けて下さい。6 月と 11 月に実施されます。目標があるとドイツ語の勉強にも張り合いが出ます。

とりあえず以上三つお伝えします。（1）が大切であることは言うまでもありませんが、（2）（3）に関連して述べておくと、「勉強に時間とお金を惜しんではならない」ということも付け加えておきたいと思います。語学の上達の秘訣は、そこにどれだけ自分を没入させられるかにかかっているからです。

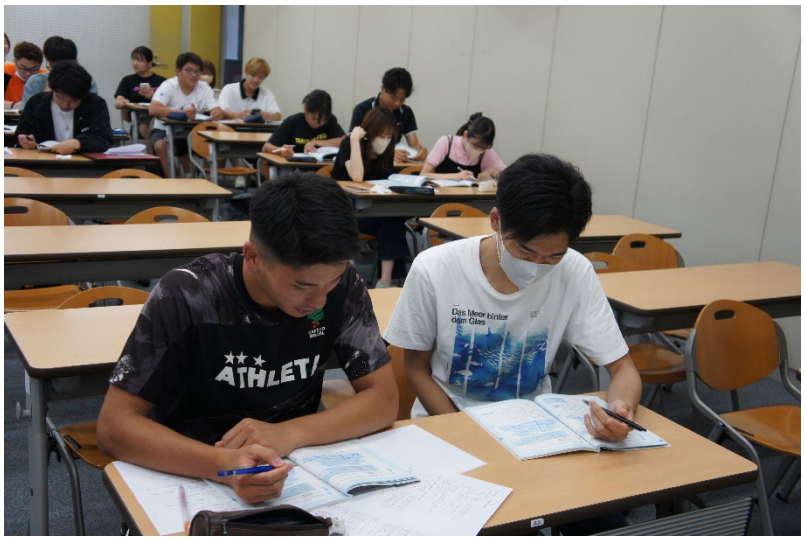
ところで皆さん村上春樹の小説『ノルウェイの森』を読んだことがありますか？　主人公のワタナベ君は大学生で、暇な時によくドイツ語の教科書を開いています。彼は同級生の女子学生に「仮定法

現在と仮定法過去の違いを説明できるか」と聞かれこう答えます。

「できると思うよ」と僕は言った。
「ちょっと訊きたいんだけれど、そういうのが日常生活の中で何かの役に立ってる？」
「日常生活の中で何かの役に立つということはあまりないね」と僕は言った。「でも具体的に何かの役に立つというよりは、そういうのは物事をより系統的に捉えるための訓練になるんだと僕は思ってるけれど」

語学の授業では「会話ができること」が目標のすべてではありません。それはもちろん大切なのですが、外国語学習は自分の母語や自国の文化を相対化し、ワタナベ君の言うように「物事をより系統的に捉える」機会を与えてくれるのです。これも外国語学習の大きな目的の一つです。この小説を読むと「ドイツ語勉強してみよう」という気になりますので、是非一度読んでください。

ドイツ語を選択された皆さんに教室で会えるのを心待ちにしております。それでは Auf Wiedersehen!（またお会いしましょう）



2023 年度の授業の様子